



岡崎 正淳 (55分) 誠友会

地域戦略の推進は

問 ①今後の方向性は。

答 ②南部地域の支所分散型配置の成果と課題は。

①まちづくりサポートセンターの機能を強化し、地域外の多様な主体と地域住民との交流などを推進し、課題解決につなげる。
②各支所が市民に身近な窓口とし

て細やかな対応に努めてきた。引き続き、南部地域振興課が住民や団体のニーズを把握し、各支所との連携を深めるよう取り組む。

宮澤喜一記念館(仮称)は

問 陳情書が提出されたが、概要と市長の受け止めは。

答 郷土の偉人である宮澤喜一さんを顕彰し、その功績を広く世の中に伝えるため「はきもの資料館」内に記念館の設置を求めたものであった。今後、地域の皆さんの思いの実現に向けて努力する。

鞆町のまちづくりは

問 鞆町並み保存拠点施設「鞆てらす」の供用開始に向けた取り組み状況は。

答 ホームページ、広報ふくやまへの掲載を行い、施設の概要や愛称の周知を図るとともに、7月の供用開始セレモニーにおいて、応募者の表彰を行う。
また、事前見学会を企画するなど、供用開始に向けた機運の醸成に努める。



田口 裕司 (40分) 誠友会

障がい者プランは

問 本市は、施設入所者の削減と地域生活への移行の目標実現のために、日中サービス支援型グループホームの整備の推進を掲げているが、現状の施設数や課題、推進に向けた具体策は。
答 日中サービス支援型グループホームは、重度の障がい者に対する

応するため創設された施設である。
現在、本市には7施設が設置されているが、いずれも定員を満たし、重度障がい者の入居希望に応えきれない実態がある。一方で、介護サービス包括型など他の形態のグループホームは95施設あり定員に空きがある施設もある。そのため、まずこれらの施設のうち、日中サービス支援型へ移行する意思のある事業者に対し、設備整備補助や人材確保に対する助言などの支援により転換を図っている。

の旨を、既に国に申し入れている。

高齢者へのデジタル活用支援は

問 継続的にスマートフォンに触れる、魅力的な仕掛けの構築は。

答 まなびの館ローズコムや各支所でデジタルサービス講習会を開催している。今後は、普段の生活に役立つ内容を盛り込むことで利便性を実感できるよう工夫し、安心して気軽に学べるよう、公共施設に限らず、幅広く受講しやすい開催場所も考えていく。



小島 崇弘 (50分) 誠友会

環境啓発施設「芦田川見る館」の利活用は

問 年々災害発生危険度が増す中、防災等への関心が高まっていると認識する。新たに浸水対策や防災の啓発の場としての利活用を検討してはどうか。

答 本市は、防災啓発の場としても活用したいと考えており、そ



荒玉 賢佑 (50分) 誠友会

行政のデジタル化は

問 情報セキュリティの取り組みは。

答 個人情報をはじめ、本市の保有する情報資産をサイバー攻撃等さまざまな脅威から守るため「福山市情報セキュリティポリシー」を定め、技術的・人的対策など総合的に取り組んでいる。